

機関番号：32653

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20591422

研究課題名（和文） 生体腎移植ドナーの意思決定と満足度に関する前向きコホート研究

研究課題名（英文） Decision-making and satisfaction involved in living kidney donations: a prospective cohort study

研究代表者

西村 勝治（NISHIMURA KATSUJI）

東京女子医科大学・医学部・講師

研究者番号：60218188

研究成果の概要（和文）：まず生体腎移植ドナーの意思決定プロセスに関わる要因を明らかにするため、臓器提供の意思確認面接に基づく質的分析を行った。27 因子が抽出され、6 カテゴリーに分類できた（レシピエントに関わること、ドナー候補者に関わること、移植に対する意味づけ、ドナーセレクション、家族関係、情報のアクセスと医療への信頼感）。次に、得られた項目を元に、生体腎移植ドナーの意思決定と満足度に関する調査票をそれぞれ開発した。現在、提供後の満足度に寄与する意思決定要因を明らかにするために、上記調査票を用いた前向きコホート研究を継続している。

研究成果の概要（英文）：First, to elucidate the factors influencing the decision-making process involved in organ donation for living kidney transplantations, we conducted a qualitative research study. Twenty-seven factors associated with decision-making were defined, and were divided into the following 6 major categories: (1) factors related to the recipients, (2) factors related to the donor candidates, (3) defining the need for the transplantation, (4) donor selection, (5) family relationships in donor selection, and (6) accessibility to the information and the sense of trust toward medical care and medical providers. Second, on the basis of the results from the qualitative study, we developed two questionnaires about the decision-making process and satisfaction for the living kidney donation. Now, using data obtained in both questionnaires, we continue a prospective cohort study to clarify the decision-making factors contributing to satisfaction after donation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・精神神経科学

キーワード：移植、生体腎移植、ドナー、意思決定、満足度

1. 研究開始当初の背景

欧米諸国と大きく異なり、わが国では臓器

移植（腎臓移植、肝臓移植）の約 80%以上が生体ドナーからの提供によって成立してい

る。日本移植学会は平成18年11月に臓器提供に関する倫理指針を改変し、臓器提供が他からの強制ではなく、提供者の自発的意思に基づくものであることを確認するシステムを整備するように明言した。生体ドナーの自発的意思の確認は家族以外の第三者（倫理委員会が指名する精神科医など）が行い、その前提として意思決定を支援できる医療体制を整備することが求められている。しかし、これまでわが国では生体腎移植ドナーの臓器提供の意思決定プロセスの実態把握や、提供後の心理社会的な予後に関して体系的な調査はなされてこなかった。

ドナーの自発的な意思決定において最も重視されるのは、(1)意思決定に際して強制がなかったか、(2)移植のリスクとベネフィットについて充分理解しているかの2点といわれている (Karliova et al, 2002)。実際にはドナーには様々な心理的な負荷がかかり (春木, 2005)、特に家族関係、家族内役割の変化から家族内葛藤が顕在化するケースもある (小林ら, 2003) が、これらは個別例の記述的な研究にとどまっている。近年、他国ではドナーの意思決定における動機が明らかにされたが (Lennerling et al, 2004)、メンタリティを異にするわが国ではおのずと事情は異なると予想される。

近年ようやく生体ドナーに関する詳細なプロスペクティブな研究がでてきた (Reimer et al, 2004; Walton-Moss et al, 2007) が、わが国の背景を反映した多数例を対象とし、臓器提供の意思決定とその後の心理社会的予後に関するプロスペクティブな研究が求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の2つである。

目的(1): 生体腎移植ドナーにおける臓器提供の意思決定に関わる要因を明らかにする

目的(2): 移植から1年経過した時点でのドナーの満足度に関わる要因を明らかにする

それぞれの目的に沿って以下の2つの課題を設定した。

課題(1): 生体腎移植ドナーにおける臓器提供の意思決定および満足度に関連する因子の評価尺度（「生体腎移植ドナーの意思決定に関する調査票」および「生体腎移植ドナーの満足度に関する調査票」）を開発する

課題(2): 課題(1)で作成した評価尺度を用いて、意思決定および満足度に関わる要因を検討する

3. 研究の方法

課題(1)

まず、生体腎移植ドナー候補者の意思確認面接の記録をもとに、意思決定に関わる要因の質的分析を行った。

具体的には、臓器提供の自発的意思の確認のための面接を行った152名のドナー候補者から、意思決定に問題がないと判断した者、意思決定に何らかの問題があると判断した者を抽出し、面接記録を質的分析の対象とした。分析対象者は性別・レシピエントとの関係性・年齢などを考慮して抽出した。データ分析にはグラウンデッド・セオリー・アプローチ (Glaser & Strauss, 1967) の継続的比較分析法を用い、面接記録から臓器提供の意思決定に関わる因子と思われる箇所を抜き出し、整理した。データ分析には、この方法に習熟し、研究と移植医療に対して中立的な立場にある研究者の助言を得た。

次に、データ分析により抽出された因子をもとに、生体腎移植ドナーにおける臓器提供の意思決定および満足度を尋ねる質問項目を作成した。項目作成時には臨床経験の豊富な移植医、腎臓内科医、移植コーディネーター、精神科医、生体腎移植ドナー経験者にそれぞれ意見を求め、データ分析によって得られた因子内容を十分反映し、理解しやすい表現に整えた項目を準備した。

課題(2)

これからドナーとなる者を対象とし、課題(1)で作成した調査票を元に意思決定時（提供前）から提供後2年間の追跡調査を実施し、腎提供に対する満足度を規定する要因を明らかにする。

4. 研究成果

課題(1)

データの質的分析の結果、生体腎移植ドナー候補者の意思決定に関連する要因として、6つの大カテゴリーに含まれる27の因子が抽出された。これを元に27項目からなる尺度（「生体腎移植ドナーの意思決定に関する調査票」）が作成された。

（抜粋）

① レシピエントに関わること

(a) レシピエントが透析とそれによる制約を苦痛に感じている

(b) レシピエントが透析とそれによる制約をうけているのを見るのがつらい

(c) レシピエントの健康を回復させたい

(d) 元気な人と同じようにレシピエントが仕事や家庭のことをできるようになってほしい

(e) レシピエントは私があげた腎臓を大切に生活をするだろう

② ドナー候補者に関わること

(a) 自分の健康に自信がある

(b) 今が自分にとって提供しやすいタイ

ミングだ(例:退職後、子育て後など)
(c) 提供することで自分の健康や生活に悪影響はないだろう

③移植に対する意味づけ

- (a) レシピエントの病気に対して自分も責任を感じている
- (b) レシピエントの病気はレシピエントの責任だ
- (c) レシピエントは私からの提供に感謝していると思う
- (d) レシピエントが移植を強く希望している
- (e) 腎提供は自分の価値観(人生観・宗教観)に合っている

④ドナーセクション

- (a) 一番に自分が提供したいと思う
- (b) 他の人から提供してもらうことには抵抗がある
- (c) 他の人に提供してもらいたい

⑤家族関係

- (a) レシピエントと良い関係にある
- (b) レシピエントに恩義がある
- (c) レシピエントとともに闘病してきた
- (d) レシピエント以外の家族と良い関係にある
- (e) レシピエント以外の家族が移植に協力的だ
- (f) レシピエント以外の家族が私の気持ちや考えを尊重してくれている

⑥情報のアクセスと医療への信頼感

- (a) 移植について必要かつ十分な情報を得た
- (b) 移植を経験した人との出会いが役立った
- (c) この病院や医師を信頼している
- (d) 病院で十分な説明をうけた
- (e) 自分の気持ちをはっきり決まる前に検査や移植のはなしが進んだ

また、すでにドナーとなった者に対しては、臓器提供と移植医療に対する満足度に関わる要因を評価する尺度(「生体腎移植ドナーの満足度に関する調査票」)が必要となる。提供前後の意思の変化も把握できるように「生体腎移植ドナーの意思決定に関する調査票」の項目を、提供後の移植医療に対する考えを評価できるような表現に修正した。この項目も臨床経験の豊富な移植医、腎臓内科医、移植コーディネーター、精神科医、生体腎移植ドナー経験者からの意見を求めて、妥当な表現に整えられた。この「生体腎移植ドナーの満足度に関する調査票」をすでにドナーとなった者に実施し、信頼性や妥当性の検討を行った。

課題(2)

現在、新規ドナー(候補者)の追跡調査を

継続中である。尺度作成と、解析に必要な十分なドナーのエントリーに時間を要していることがその要因である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

1. 西村勝治、小林清香、大下隆司、井上敦子、石郷岡純: 生体ドナー候補者の心理社会的評価と意思確認の実際. 総合病院精神医学 23、2011 (in press) 査読有
2. 岡部 祥、岸 聡子、赤星京子、小林清香、西村勝治: 生体ドナー候補者の意思決定の支援: レシピエント移植コーディネーターの立場から. 総合病院精神医学 23、2011 (in press) 査読有
3. 桂川修一、相川 厚、西村勝治、川寄弘詔: 移植医療におけるドナーセクションにかかわる精神医学的判断指針の必要性. 総合病院精神医学 23、2011 (in press) 査読有
4. Nishimura K, Oshibuchi H, Kobayashi S, Sugawara H, Nakajima I, Sannomiya A, Teraoka S, Ishigooka J: Munchausen syndrome resulting in graft loss in a living kidney transplant patient. Psychosomatics 52, 2011 (in press) 査読有
5. 西村勝治: 生体ドナー候補者の意思決定をいかに支援し、確認するか. 特集 臓器移植の新時代. 医学のあゆみ 236(5): 489-493, 2011 査読無
6. 西村勝治: 生体臓器ドナーの意思決定をめぐる課題. 特集 生体ドナーの意思決定にどのようにかかわるか. 今日の移植 24(2), 138-140, 2011 査読無
7. 西村勝治: 生体ドナーの意思決定の支援と確認をめぐる課題. 移植 46(1): 14-17, 2011 査読無
8. 小林清香、西村勝治、岡部 祥、井上敦子、大下隆司、石郷岡純: 生体ドナーの意思決定の支援における臨床心理士のかかわり. 移植 46(1): 27-32, 2011 査読無

[学会発表](計7件)

1. 西村勝治、小林清香、大下隆司、井上敦子、石郷岡純: 生体ドナー候補者の心理社会的評価と意思確認の実際. ワークショップ: 生体臓器移植におけるドナー候補者の意思決定—精神科医に求められるもの. 第23回日本総合病院精神医学会総会、2010年11月26-27日、東京
2. Nishimura K, Kobayashi S, Oshimo T, Inoue A, Ishigoka J: Psychiatric history in living kidney donor candidates: a single-center experience in Japan. Academy of

Psychosomatic Medicine 57th Annual Meeting. Marco Islands, Florida, Nov. 10-13, 2010

3. 西村勝治：問題提起：生体ドナーの意思決定の支援と確認。ワークショップ：生体ドナーの意思決定にどのようにかわるか — 「自発的意思」をめぐる。第 46 回日本移植学会総会、2010 年 10 月 20-22 日、京都
4. 西村勝治、小林清香、大下隆司、井上敦子、石郷岡 純：精神障害の既往歴を有する生体腎移植ドナー候補者の意思決定をどのように考えるか。第 22 回日本総合病院精神医学会総会、2009 年 11 月 27-28 日、大阪
5. Nishimura K, Kobayashi S, Okabe S, Ishida H, Tanabe K, Teraoka S, Okada Y, Ishigooka J: Decision-making process involved in living kidney donation in Japan: a qualitative research study. Academy of Psychosomatic Medicine 56th Annual Meeting. Las Vegas, Nevada, Nov. 11-14, 2009
6. 西村勝治、小林清香、岡部 祥、石田英樹、田邊一成、寺岡 慧、石郷岡純：生体腎の提供意思はどのように決定されるか：質的アプローチによる検討。第 45 回日本移植学会総会、2009 年 9 月 16-18 日、東京
7. 西村勝治、小林清香、岡部 祥、菅原裕子、石田英樹、田邊一成、寺岡 慧、石郷岡純：生体腎移植ドナー候補者の臓器提供の意思決定に関わる要因。第 21 回日本総合病院精神医学会総会、2008 年 11 月 28-29 日、千葉

[図書] (計 2 件)

1. 西村勝治、小林清香：移植医療におけるサイコセラピー：生体ドナーへの心理的援助。加茂登志子、上別府圭子（編）先端医療におけるサイコセラピー。世論時報社、2011 (in press)
2. 小林清香、西村勝治：臓器移植レシピエントとサイコセラピー。加茂登志子、上別府圭子（編）先端医療におけるサイコセラピー。世論時報社、2011 (in press)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西村 勝治 (NISHIMURA KATSUJI)
東京女子医科大学・医学部・講師
研究者番号：60218188

(2) 研究分担者

小林 清香 (KOBAYASHI SAYAKA)
東京女子医科大学・医学部・臨床心理士

研究者番号：40439807

大下 隆司 (OSHIMO TAKASHI)
東京女子医科大学・医学部・助教
研究者番号：00433996

石郷岡 純 (ISHIGOOKA JUN)
東京女子医科大学・医学部・教授
研究者番号：80142412